

なからぎ

199号

2012年7月

景色に映す自分

副学長・教務部長 築山 崇

風景写真を撮ることを趣味の一つにしてかれこれ20年。入門書に学んで最初に心がけたのが、「遠景・中景・近景の組み合わせ」であった。撮影者のすぐ前の草木などと、少し先の田畑、遠方の山並みなどを組み合わせると、それなりにまとまった絵になる。例えば、田植え後の水鏡の美しさに感動してカメラを向けるとき、足元のあぜ道を視野に入れることで画面に奥行きができ、緑の山なみや青空がスケール感を演出してくれる（右上）。城跡から見おろす近江平野の広がりには、手前の樹木が距離感を与えてくれている（左下）。



その次のステップは、撮影者の思いを表現すること。これには、眼前の風景の何が自分の心を動かしているのかを意識にのぼらせる必要がある。心理学的に言えば、感覚と知覚の違いということになるのか……。網膜に映った画像のどこかに関心を絞って、「見ている」ということである。その「見ているもの」を際立たせる撮影術が求められる。

こうしたことは、社会のとらえ方にも通じるものがある。同じ時代、同じ社会に暮らしていても、社会にあふれる膨大な情報、様々な出来事のどれを、何を意識にとらえていくかによって、時代の景色は、人それぞれに異なって見えてくる。

できることなら、生きることへの希望や、人間存在への信頼、問題解決への展望などを胸に暮らしていきたいと思うのだが、そのためには、まず、自分は時代の景色をどうみているのかに自覚的であることが大切だろう。希望や信頼、解決への可能性をはらんだ要素を社会の中にとらえることで、その景色は明るさを増す。多少飛躍があるかもしれないが、学ぶという行為の本質もそんなところにあるように思う。



時代を見る目が被写体に投射されるとき、作品に声宿る。そんな写真を撮ってみたいとも思うが、まだしばらくは風景のささやきに耳を傾ける日々が続きそうだ。

本と私 — When I was very young……

図書館運営委員 竹 部 晴 美

私の母校では、府大と同じように1年次から新生ゼミがあり、そのゼミ配属はとても簡便な方法で決められていた。つまりそれぞれの実家の電話番号の下4ケタで順に割り振られていた。私は、そのような方法で私の関心とは無関係に憲法ゼミに配属された。その1年生ゼミの何回目かの授業でアメリカ映画の『12人の怒れる男たち』をみんなで鑑賞していたのであるが、なんとその最中に私は突然の睡魔に襲われ、その結果、椅子ごと豪快に後ろに倒れてしまった。そのことを思い出すと、自分が教員として教壇に立ちながら、学生に「居眠りするな」とはとても言えないと思ってしまう。

それはさておき、当時の私は、なんとなく大学に行き、テストになれば単位を取るのに躍起になるだけで、これといった関心もなく、大学生としてその時の流れに身を任せていた。だが、大学3年生になると授業は専門科目が多くなる。2年までは、テストのためにだけ勉強していたので授業の内容は十分わからないままだったり、忘れてしまったりで、ぱっとしなかった。専門科目の履修をどうしよう……と、いつもの癖でぼんやりとシラバスを見ていたときに、びっしりと英語で授業内容が書かれた授業をみつけた。「すごいな」と思うと同時に「私には英語は無理」と諦めた。

それから数日経ち、学部の先輩に出会った。久しぶりに会ったので、履修について相談してみた。私は先輩に「面白い授業ないですか」と尋ねたところ、「英米法の先生、めっちゃおもしろいで。ネクタイとかブルガリで、おしゃれやし。」と教えてくれた。さっそくシラバスをめくり英米法について調べてみると、以前見たあの英語びっしりの授業だった。

「まあ一応受けてみるか」と、いま考えると何とも上から目線な気持ちで試しに受講したのが、これが私と英米法の出会い、恩師との出会い、そして今回ご紹介する本との出会いになるわけである。

英米法の授業は予想以上に楽しく、私の学習意欲を刺激し、英米法以外の科目にも影響を及ぼすほどであった。アメリカは日本と違い判例法主義を採用しているので、判例が命である。つまり過去の事例を読み、今回問題となる事例をどのように考えていくかという思考をするわけだ。一方日本は、大陸法系なので、六法に書かれている条文を解釈することが主になる。したがって日本の法律は覚えることばかりで退屈だ（単に覚えきれなかったに過ぎないけど）と思っていた私には、自分で理屈を考えるという英米法の発想が性に合っているように思った。また先生の授業はテンポよく、学生を引き付けるすばらしい授業で、あんなエネルギーな授業は他になかった。毎週授業を録音して、帰りの電車中で聞いて帰っていた。

英米法の授業に魅了され、その当時は授業を受講している以外何の接点もない丸田隆先生の研究室をノックした。研究室には書物がたくさんあって、なかでも背表紙が英語で書かれたハードカバーのcasebookは一際かっこよく、憧れた。ちょうどそのころ法学部は大きな変革期の時期で、ロースクールの設立のために法学部の先生が何人もロースクールに移るようになっていた。そこで私はロースクールに移籍する先生のお手伝いをさせていただくことになり、先生の本とたくさん触れ合う機会を頂いた。

かなり前置きが長くなってしまったが、恩

師の研究室で出会った本について、ここで取り上げさせていただきたいと思う。まず一冊目は川島武宜著『日本人の法意識』（岩波新書、1967年）である。この本は、明治期の法典はドイツとフランスを規範としてつくられおり、作られたときにはすでに西洋と日本の大きなずれが生じていたことを指摘し、このずれが現在どのように変わっているのかということに着目しながら日本人の法意識に関する特徴について考えるものである。日本人の「お上意識」についてや権利に対するこだわりのなさなど、いまでも十分論点として取り上げられるトピックが出てくる本である。

いま私の手元にある『日本人の法意識』はただの本ではない。この本は、丸田先生の師匠である及川伸先生が丸田先生にお譲りになり、それを私は丸田先生から譲り頂いた。だから本はボロボロで、紙の周りは黄色を通り越し、オレンジ色に近い黄ばみようである。おまけに本の中には、及川先生が引いた線、丸田先生が引いた線が残っている。私が読んでみると、どちらの線も「ん？」と思う所に引かれていたりする箇所がたまにあるから面白い。先生たちがどのようなことに関心を持ったのかわかる私の大事な宝物となっている。

もう一冊ご紹介したいのは丸田隆著『アメリカ民事陪審制度 — 「日本企業常敗」 仮説の検証』（弘文堂、1997年）である。この本は、アメリカ国内で事業展開している日本企業が、アメリカの民事陪審裁判で受けた評決結果について分析している。アメリカで日本企業が民事陪審裁判を受けると、そのほとんどが敗訴していると一般的に批判されているが、果たして本当にアメリカ人の陪審員は日本企業に偏見を持っていて、しかも事実認定能力が欠如し、いつも日本企業を敗訴にしているのかという疑問から、日本企業に対するアメリカ民事陪審裁判評決のケース分析をと

おして日本企業常敗の真偽を検証し、アメリカ民事陪審制度の問題点について検討している。この本は、二部構成になっており、一部では問題提起とアメリカ民事陪審裁判手続についての具体的な紹介、その実態を表すデータを分析している。またアメリカ民事陪審制度の批判についても詳しい分析がなされている。二部では在米日本企業に対するアメリカ民事陪審評決の動向をデータに基づいて検討している。「日本企業常敗」仮説の実証研究は、在米日本企業上位50社の過去10年間の全陪審評決についてデータベースに基づいて検索したものを整理した上で、日本の会社別勝敗表が作成されている。そして分析のもととなった日米双方の会社別民事陪審評決の基礎データが添付されており、そのような会社がどのような訴訟で訴えられているのかなどが詳細に分析されている。この本は、ちょうど阪神大震災が起こったころにデータの実態分析が行われており、当時先生は神戸にある甲南大学におられたので、震災でコンピューターにあった原稿データがすべて消えてしまったそうだ。それを手作業で復元して書物として刊行した。生みの苦しみが強いだけに、この本に対する思い入れはひとしおだろうと思う。私はこの本を丸田先生の研究室でみつけた。先生は陪審制度の第一人者だが、普段は刑事陪審に力を注がれているので、民事陪審が取り上げられた本書は私の目に新鮮に映った。

私は、いま民事訴訟における証拠開示（Discovery 制度）について研究をしているが、本書の影響をかなり強く受け、研究テーマを決めた。私の恩師が陪審一筋であるように、私も自分の研究テーマを大切に温め、生みの苦しみを味わいながらいつかこの本に負けないような成果を刊行したいと思う。

（たけべ はるみ：公共政策学部講師）

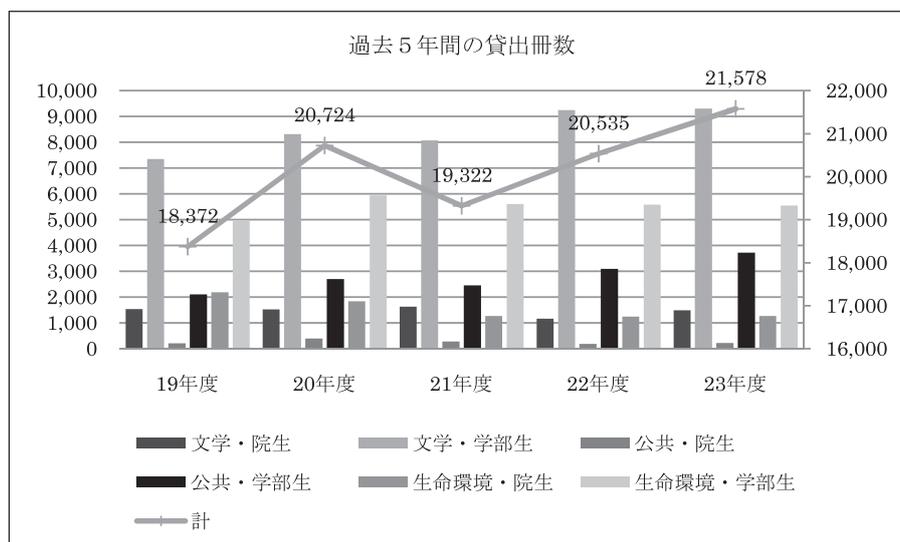
御紹介の「日本人の法意識」岩波新書 1967.5刊（請求番号 320.4 || K）、『アメリカ民事陪審制度 — 「日本企業常敗」 仮説の検証』弘文堂 1997.3刊（請求番号 327.953 || M）は、2階閲覧室入口に配架していますので、御利用ください。

2012年度の利用者サービスをふりかえって

過去最高の貸出冊数を記録

図書の貸出 23,313冊 (昨年度22,000冊) 学部生・院生貸出 21,578冊 (昨年度20,535冊)
 学生一人当たり9.99冊借りたこととなります。学部ごとに見たものが下記の表です。
 (学部名は現在のものに統一しています。其々に旧学部・学科在籍者を含みます。)

1人当たりの 貸出冊数	19年度	20年度 (法人化後)	21年度	22年度	23年度
文学・院生	16.77	17.41	21.19	17.10	20.99
文学・学部生	14.27	16.84	16.78	19.30	19.89
公共・院生	7.96	13.69	8.76	6.96	7.85
公共・学部生	6.73	7.79	6.51	7.48	8.45
生命環境・院生	10.18	8.88	6.13	5.72	5.21
生命環境・学部生	5.52	6.53	6.23	6.16	6.12



学生希望図書購入 220冊
 (昨年度 218冊)

貸出冊数とリクエスト数の関係を学部・研究科単位で見ると、

	貸出比率	リクエスト比率
文学	50%	39%
公共政策	18%	36%
生命環境	32%	25%

でした。貸出冊数に対して公共政策学
 研究科・学部のリクエスト数が際立っ
 ています。

論文の取寄せ 1,677件
 (昨年度 1,668件)

他大学への論文の提供 1,669件
 (昨年度 1,639件)

図書の取寄せ・提供 116冊・173冊
 (昨年度 113冊・138冊)

昨年度とほぼ同数の依頼、提供をおこな
 いました。論文の取寄せは実際に取り寄せ
 た件数です。図書館で所蔵していたり、電
 子ジャーナルやリポジトリから全文が見ら
 れて取消しになったものがこれとは別に約
 400件近くあります。

図書館で語学学習しませんか？



閲覧室西側のAVブースに液晶TVが入りました。

これでようやくDVDやCDを普通に視聴することができます。今までご迷惑おかけしました。

特にお勧めは、語学学習用に研究室から移管されたり、先生が選書された資料。開架書架にありますので、どんどん活用してレベルアップしてください。



DVDの例としては『シャーロック・ホームズの冒険』という21巻のシリーズ(所在:開架 請求記号:830.7||D)。1時間のドラマを見て学習できるようになっています。この資料は所在の表示は開架ですが、カウンター内に置いていますので利用を希望される方は職員に声をかけてください(著作権法の関係で、館内利用をお願いします)。



そのほか2階書庫にはドキュメンタリー等のVHSやBateのビデオもあります。また、変わり種には、虫の声を集めたCDもあります(『バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑』の付録 所在:参考 請求記号:486.4||N)。

利用の際は、カウンターにある『機器利用簿』を記入してください。

空き時間を有効に活用してみませんか。

京都工芸繊維大学附属図書館の利用が可能に

両大学図書館間で相互利用協定が結ばれたことで、平成24年6月1日(金)から相互に利用できるようになりました。京都府立医科大学附属図書館、京都外国語大学附属図書館に続く3館目になります。

利用対象者は、本学の教職員(非常勤除く)、学部生、大学院生です。

貸出には、工織大の図書館利用証が必要です。図書5冊(3週間)、雑誌1冊(3日間)

※申込は、学生証(身分証)を持参して、工織大の図書館カウンターでお願いします。

京都工芸繊維大学附属図書館利用登録申込書は府大図書館カウンターにも用意しています。

利用証は、申請した日の翌日午後には交付されます(ただし土曜日除く)。

工織大のOPACを検索して、所在が積層書庫・保存書庫、貴重図書以外は直接閲覧することが可能です。その他利用にかかる詳細は、府大図書館カウンターへお尋ねください。

他の2館に比べ、府大からのアクセスが抜群に良い大学図書館です。ぜひご利用ください。

カレンダー

開館時間等

9:00~ 21:00	9:00~ 17:00	休館 土日祝 蔵書点検
----------------	----------------	-------------------

☆閉館時の図書の返却は、図書館西側(喫煙コーナー付近)の返却ポストをご利用ください。

2012年8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

★8/10(金) 開館時間変更 9:00~17:00

★8/13(月)~31(金)
2階閲覧室(書庫を含む)は、蔵書点検のため
休室。

★7/27(金)~ 夏休み貸出
返却期限 10/9(火)

2012年9月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

★9/3(月)~28(金)
開館時間変更 9:00~17:00

★9/25(火)~ 通常貸出

★10/1(月)~ 通常開館(21:00閉館)